



2011年3月期決算 プレゼンテーション資料

2011年4月
大阪ガス株式会社

I. 11.3期決算と12.3期見通し

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています : 下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。<http://www.osakagas.co.jp/company/ir/>

「見通し」に関する注意事項 : このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

ガス販売量に関する注記 : 全て、基準熱量を45MJ/m³として、表記しています。

連結ガス販売量に関する注記 : 名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

11.3期決算のポイント

■ 概況

連結売上高	景気回復などに伴うガス販売量の増加、泉北天然ガス発電所の全基稼働、不動産事業をはじめとする連結子会社の売上増加などにより、 前年比8.3%増収の1兆1,871億円。
連結営業利益	諸経費の減少や、電力事業利益の増加があるものの、LNG価格上昇に伴う原材料費の増加により、ガス粗利益が減少したことから、 前年比2.8%減益の885億円。 時期ずれ差損が85億円発生 (前年は時期ずれ差益が267億円発生)。

■ ガス販売量

家庭用	冬場の気温・水温が前年より低く推移したことなどから、 前年比1.4%増加の2,275百万m³。
業務用	新規需要開発や景気回復に伴うお客さま設備の稼働増加などにより、 前年比6.3%増加の5,765百万m³。

■ その他

配当	1円/株 増配 (年間8円/株)
自己株式取得	200億円 (63,724千株)の 自己株式を取得・消却。
新規事業拡大投資	スペイン・サグントLNG基地や、UAE・シュワイハットIWPPへの投資等を意思決定。投資実行額は計263億円。

11.3期ガス販売実績

45MJ/m ³		A. 11.3期	B. 10.3期	A-B	A-B/B(%)
個 別	お客さま数(千件)	7,012	6,980	+33	+0.5%
	新設工事件数(千件)	79	85	-5	-6.3%
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	32.7	32.3	+0.4	+1.3%
	家庭用	2,275	2,244	+32	+1.4%
	商・公・医療用	1,624	1,543	+81	+5.2%
	工業用	4,141	3,877	+263	+6.8%
	業務用計	5,765	5,420	+344	+6.3%
	他ガス事業者向け	488	455	+33	+7.2%
	(うち大口供給)	(4,874)	(4,576)	(+298)	(+6.5%)
	ガス販売量合計(百万m ³)	8,528	8,119	+408	+5.0%
連結ガス販売量	8,560	8,150	+409	+5.0%	

11.3期実績 I

連結:億円	A. 11.3期	B. 10.3期	A-B	A-B/B(%)	()内は連単倍率 備考
売上高	(1.29) 11,871	(1.30) 10,966	+905	+8.3%	ガス販売量の増加、 電力事業収益の増加、 不動産子会社売上増加など
営業利益	(1.68) 885	(1.51) 911	-25	-2.8%	ガス粗利益の減少など
経常利益	(1.49) 823	(1.32) 848	-24	-2.9%	
当期純利益	(1.33) 459	(1.21) 483	-24	-5.0%	
SVA	132	140	-8	-6.0%	

		A. 11.3期	B. 10.3期	A-B
連結ガス販売量	百万m ³	8,560	8,150	+409
時期ずれ差損益	億円	-85	267	-352
為替レート	円/\$	85.7	92.9	-7.2
原油価格	\$/bbl	84.1	69.4	+14.7
連結子会社数		131	128	+3

11.3期原油価格実績は、3月速報値までの平均。SVA(Shareholders' value added)=NOPAT-投下資本×WACC。Design Your Energy 夢ある明日を

11.3期実績 II

連結:億円	A. 11.3末	B. 10.3末	A-B	備考
総資産	14,372	14,838	-465	
自己資本	6,649	6,666	-17	
有利子負債	5,324	5,390	-65	
在籍人員	19,684	19,268	+416	
自己資本比率	46.3%	44.9%	+1.4	
D/E比率	0.80	0.81	-0.01	
	A. 11.3期	B. 10.3期	A-B	備考
設備投資	696	982	-286	前期に泉北天然ガス発電所建設あり
減価償却費	975	954	+21	泉北天然ガス発電所減価償却費の増加
フリーキャッシュフロー	727	1,754	-1,026	売上債権増加などによる営業CF減
ROA	3.1%	3.3%	-0.1	
ROE	6.9%	7.6%	-0.7	
EPS (円/株)	21.6	22.5	-0.9	
BPS (円/株)	319.3	310.4	+8.9	

FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-通常の設定投資による支出。Design Your Energy 夢ある明日を

UAE・シュワイハットIWPP事業への出資

- アラブ首長国連邦(UAE)で建設中のシュワイハットS2発電造水事業に関し、丸紅株式会社が出資している事業会社の株式10%、保守運転会社の株式25%を取得することで合意。
- 発電能力は150万kW(天然ガス発電設備)、造水能力は日量45.4万 m^3 。
- 2008年12月に建設着工済み、2011年秋に商業運転開始予定。
- 電力と水は、アブダビ水・電力公社に25年間にわたり販売。



全体イメージ図

12.3期経営方針

■ 活動指針

「Boost Up（加速）」

- 中長期経営計画「Field of Dreams 2020」実現に向けた取り組みを加速する。

■ 重点実施項目

(1) お客様満足の上昇と低炭素社会実現への貢献

- 天然ガスの普及拡大、高度利用
- マイホーム発電(エネファーム、エコウィル)・高効率給湯器の普及
- 再生可能エネルギー(太陽光発電、太陽熱システム、バイオガス)の普及拡大

(2) 成長投資・事業拡大

- 海外エネルギーバリューチェーンビジネス
- 国内電力ビジネス、広域供給
- 関係会社(都市開発、情報、先端材料、LPG・産業ガス、ライフサービス)

(3) 安定供給・保安の確保、CSR

(4) スマートワークへの取り組み

12.3期見通しのポイント

■ 概況

連結売上高	原油価格の上昇を想定したことに伴う、 ガス販売価格の上昇を織り込み、 前年比6.7%増収の1兆2,670億円 を見込む。
連結営業利益	原油価格の上昇に伴う原材料費の増加により、 ガス粗利益が減少するほか、諸経費が増加するため、 前年比16.5%減益の740億円 を見込む。 時期ずれ差損が191億円発生 すると想定。

■ ガス販売量

家庭用	平年気温を前提とし、 前年比1.7%減少の2,237百万m³ を見込む。
業務用	新規需要開発はあるものの、 前年の夏場の猛暑による冷房需要の反動減を織り込み、 前年比0.8%減少の5,720百万m³ 。

■ その他

新規事業拡大 投資	海外エネルギーバリューチェーン事業での投資を中心に、 970億円の投資 を計画。
--------------	--

12.3期ガス販売見通し

45MJ/m ³		A. 12.3期 見通し	B. 11.3期 実績	A-B	A-B/B(%)
個 別	お客さま数(千件)	7,050	7,012	+37	+0.5%
	新設工事件数(千件)	79	79	-0	-0.5%
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	32.2	32.7	-0.6	-1.7%
	家庭用	2,237	2,275	-38	-1.7%
	商・公・医療用	1,552	1,624	-72	-4.4%
	工業用	4,168	4,141	+27	+0.6%
	業務用計	5,720	5,765	-45	-0.8%
	他ガス事業者向け	491	488	+3	+0.6%
	(うち大口供給)	(4,878)	(4,874)	(+4)	(+0.1%)
	ガス販売量合計(百万m ³)	8,448	8,528	-80	-0.9%
連結ガス販売量	8,480	8,560	-80	-0.9%	

12.3期見通し I

()内は連単倍率

連結:億円	A. 12.3期 見通し	B. 11.3期 実績	A-B	A-B/B (%)
売上高	(1.27) 12,670	(1.29) 11,871	+798	+6.7%
営業利益	(1.72) 740	(1.68) 885	-145	-16.5%
経常利益	(1.59) 700	(1.49) 823	-123	-15.0%
当期純利益	(1.40) 435	(1.33) 459	-24	-5.4%
SVA	100	132	-32	-24.2%
連結ガス販売量	百万m ³ 8,480	8,560	-80	
時期ずれ差損益	億円 -191	-85	-106	
為替レート	円/\$ 85	85.7	-0.7	
原油価格	\$/bbl 100	84.1	+15.9	

SVA(Shareholders' value added)=NOPAT- 投下資本×WACC

Design Your Energy 夢ある明日を

OSAKA GAS

12.3期見通し II

連結:億円	A. 12.3末見通し	B. 11.3末実績	A-B
総資産	15,192	14,372	+819
自己資本	6,936	6,649	+286
有利子負債	5,718	5,324	+393
在籍人員	20,330	19,684	+646
自己資本比率	45.7%	46.3%	-0.6
D/E比率	0.82	0.80	+0.02
	A. 12.3期見通し	B. 11.3期実績	A-B
設備投資	908	696	+212
減価償却費	968	975	-7
フリーキャッシュフロー	708	727	-19
ROA	2.9%	3.1%	-0.2
ROE	6.2%	6.9%	-0.7
EPS (円/株)	20.9	21.6	-0.7
BPS (円/株)	333.1	319.3	+13.8

FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-通常の設備投資による支出。Design Your Energy 夢ある明日を

12.3期連結フリーキャッシュフローの使途

- 12.3期のFCFは、対前期比19億円減の708億円となる見通し。
- 新規事業拡大投資は、970億円を計画。

海外エネルギーバリューチェーン事業

意思決定済案件への支出
新規案件の発掘・取得

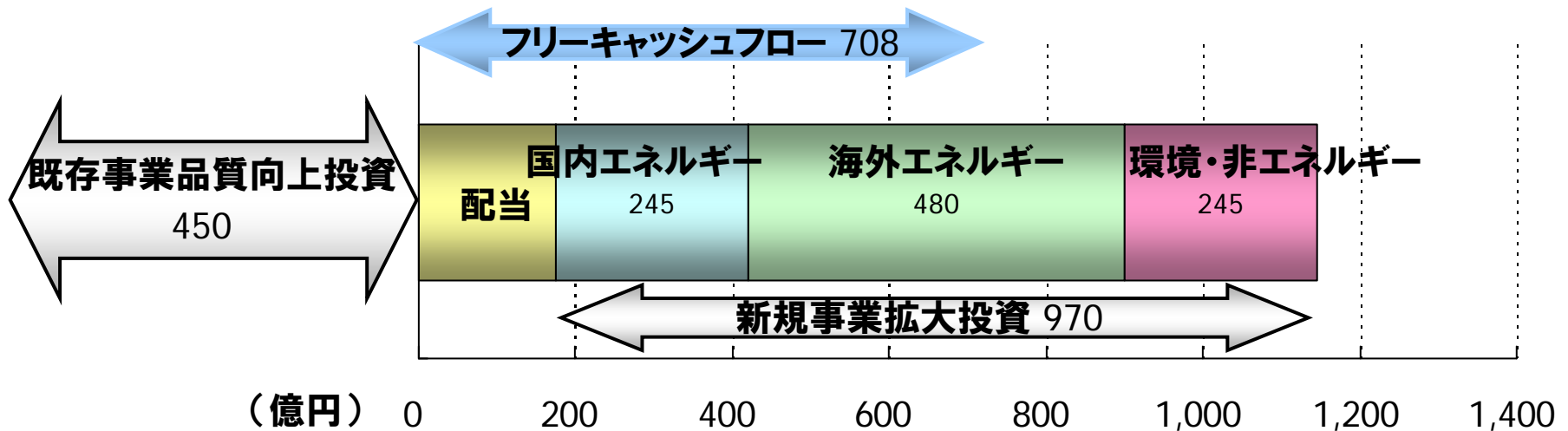
国内エネルギーサービス事業

基幹導管建設

環境・非エネルギー事業

収益不動産取得

- 11.3期に引き続いて、年間配当8円/株を目指す。



フリーキャッシュフロー=営業活動によるキャッシュフロー - 通常設備投資(既存事業品質向上投資)による支出。
投資額には設備投資案件と投融資案件の両方を含むため、設備投資の計画値とは異なる。

II. 参考資料

11.3期売上高実績の前年差異

10.3期 → 11.3期 (差異)

10,966億円 11,871億円 (+905億円)

個別: +740億円

ガス売上高 +433億円
・原料費調整影響 +214億円
・数量差等 +219億円

その他売上高 +306億円
・電力収益 +215億円
・器具販売収益 +58億円
・LNG販売収益 +23億円

連結-個別: +164億円

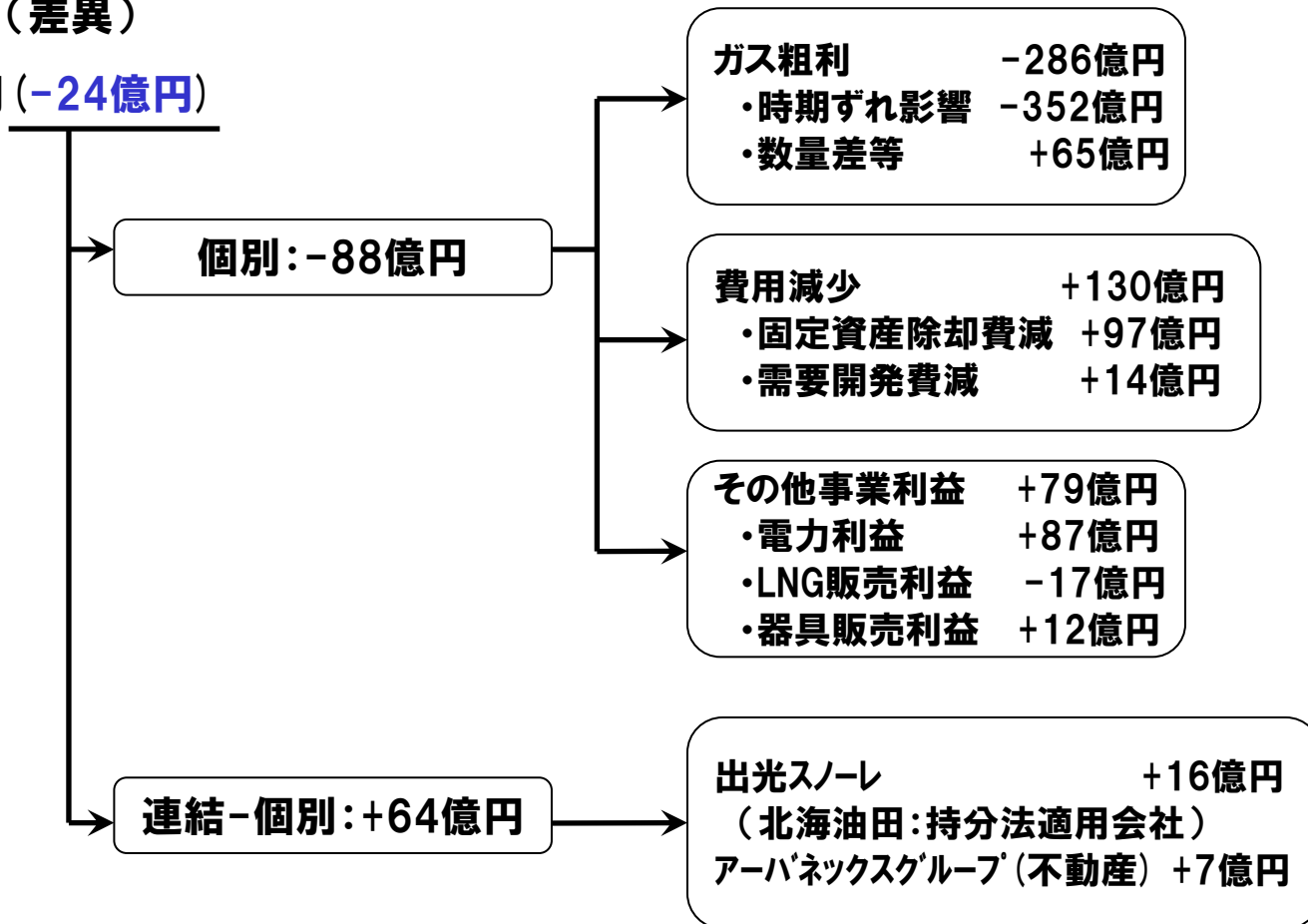
アーバネックス(不動産) +71億円
大阪ガスメゾン(不動産) +45億円
日商プロバン石油(LPG) +26億円

11.3期経常利益実績の前年差異

10.3期 → 11.3期 (差異)

848億円 823億円 (-24億円)

+-の符号は、利益影響を表す。



11.3期セグメント別実績

単位:億円	売上高		セグメント利益(*)		備考
	11.3期	10.3期	11.3期	10.3期	
ガス	8,798	8,255	419	573	売上:ガス販売量増 利益:時期ずれ差損の発生
LPG・電力・ その他エネルギー	1,747	1,434	256	148	売上:電力収益増など 利益:電力利益増など 電力事業利益 (*) :10.3期 36億円 11.3期123億円
海外エネルギー	111	111	49	42	持分法投資利益増(北海油田)
環境・ 非エネルギー	1,854	1,756	156	140	売上:不動産売上増など 利益:不動産利益増など
消去又は全社	-640	-591	25	18	
連結	11,871	10,966	907	924	

(*) セグメント利益＝営業利益＋持分法投資利益

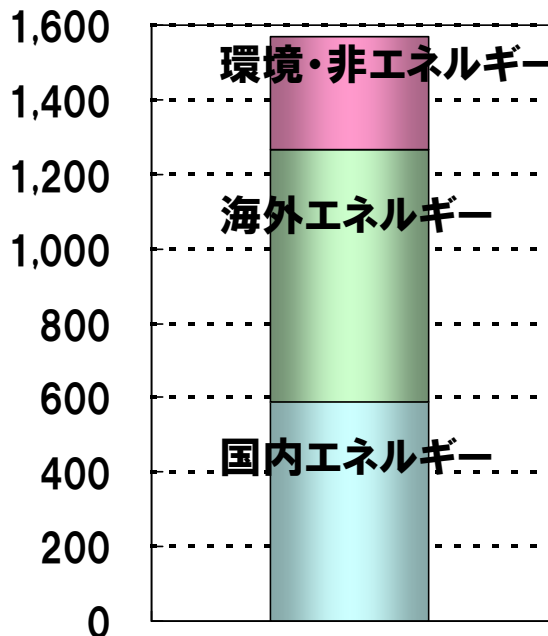
(*) 電力事業利益は、大阪ガス附帯電力事業の営業利益を表示。

11.3期よりセグメントを変更しており、10.3期の実績は新セグメントへの組み換えを行った場合の値を示しています。

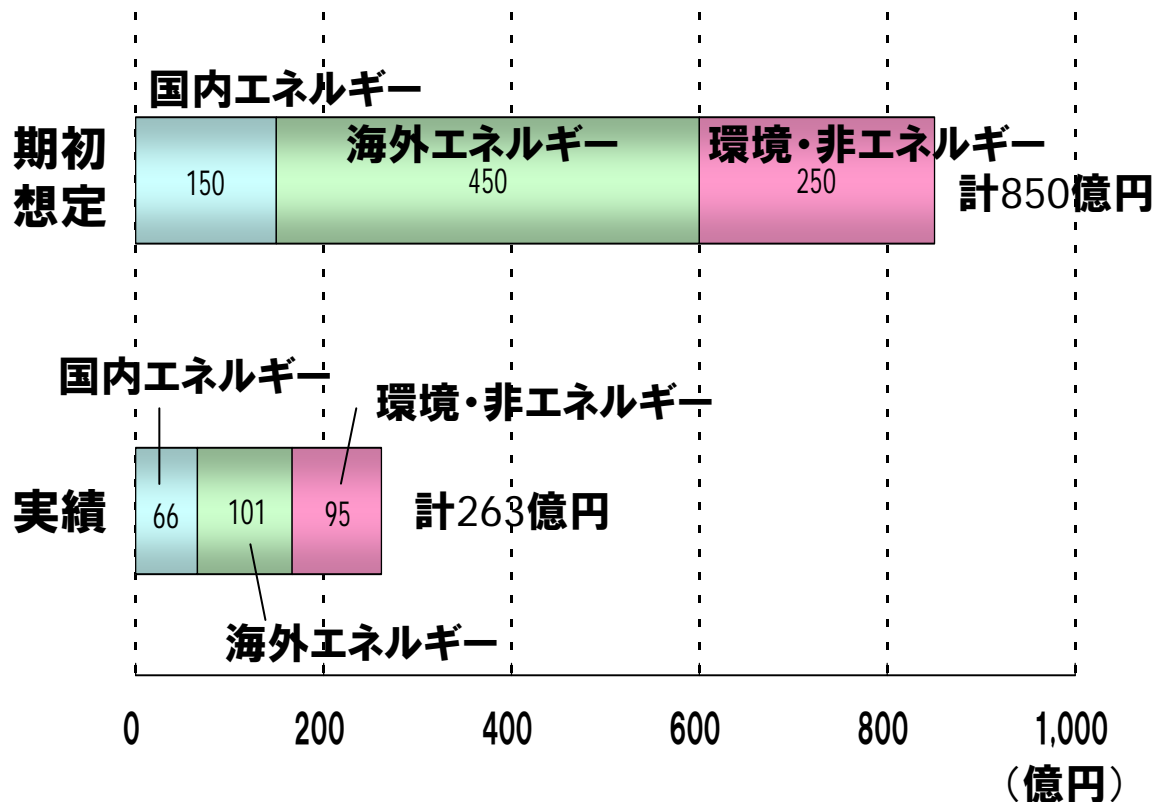
11.3期新規事業拡大投資実績

- 10.3期からの累計意思決定済金額は**1,570億円**(10.3期～14.3期計画額の39%)。
- 10.3期からの累計キャッシュアウト済金額は713億円。

10.3期からの
(億円) 累計意思決定済金額



11.3期の新規事業拡大投資



投資額には設備投資案件と投融資案件の両方を含むため、設備投資の実績値とは異なります。

12.3期売上高見通しの前年差異

11.3期実績→12.3期見通し(差異)

11,871億円 12,670億円 (+798億円)

個別:+834億円

ガス売上高 +790億円
・原料費調整影響 +872億円
・数量差等 -82億円

その他売上高 +44億円
・附帯収益 +74億円
・器具販売収益 -20億円

連結-個別:-35億円

大阪ガスメゾン(不動産) -72億円
アーバネックス(不動産) -24億円
国内IPP +30億円
日商LPガス(LPG) +23億円
大阪ガスケミカル +12億円

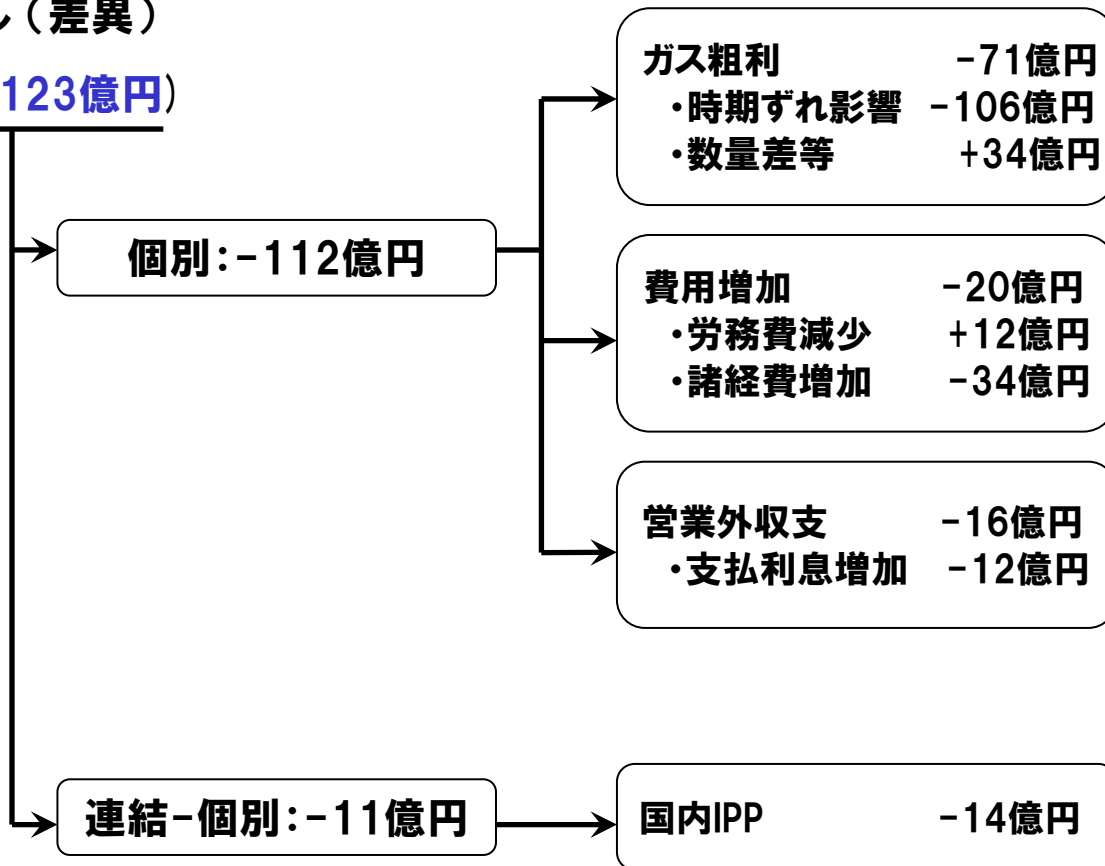
12.3期経常利益見通しの前年差異

11.3期実績 → 12.3期見通し（差異）

823億円

700億円 (-123億円)

+-の符号は、利益影響を表す。



12.3期セグメント別見通し

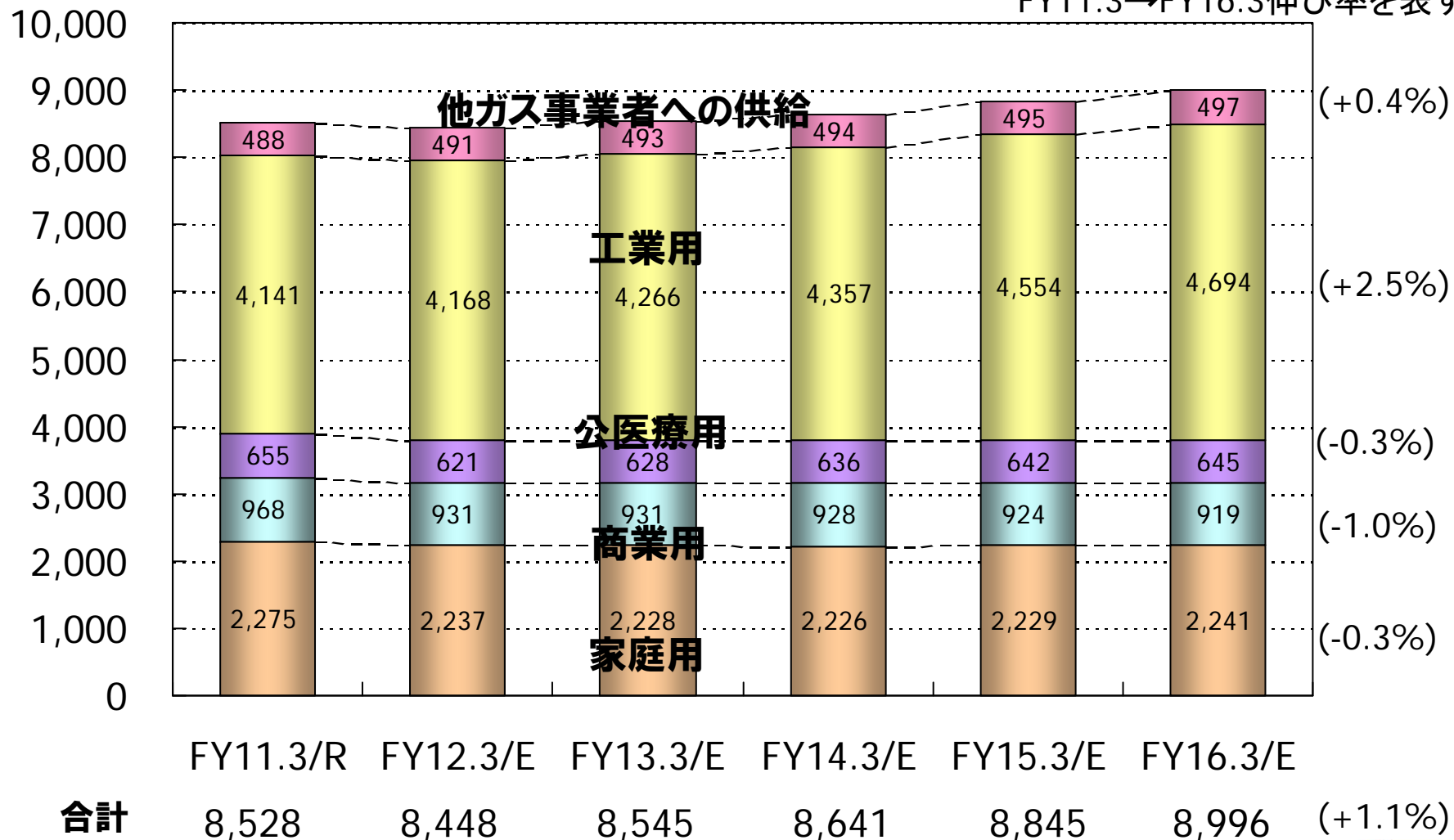
単位:億円	売上高		セグメント利益(*)		備考
	12.3期 見通し	11.3期 実績	12.3期 見通し	11.3期 実績	
ガス	9,510	8,798	315	419	売上:ガス販売価格の上昇 利益:時期ずれ差損の拡大
LPG・電力・ その他エネルギー	1,925	1,747	225	256	売上:電力・LNG販売収益増、 LPG販売単価増など 利益:国内IPP利益減など
海外エネルギー	110	111	60	49	持分法投資利益増 (北海油田、スペインIPP)
環境・ 非エネルギー	1,705	1,854	150	156	売上:不動産売上減など 利益:先端材料利益減など
消去又は全社	-580	-640	20	25	
連結	12,670	11,871	770	907	

(*)セグメント利益＝営業利益＋持分法投資利益

個別ガス販売量の中期見通し

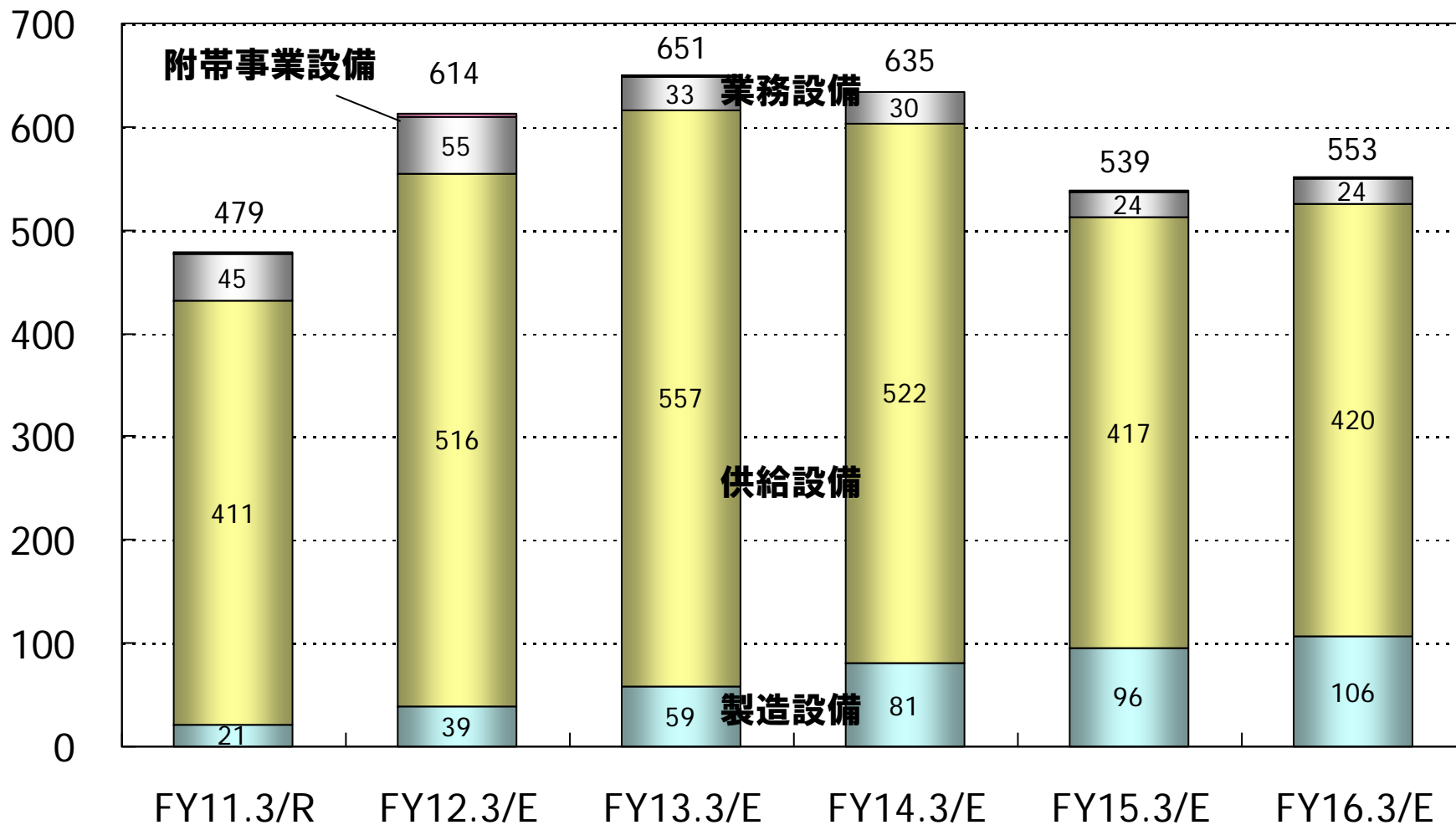
(45MJ, 百万m³)

グラフ右欄外の()内は、
FY11.3→FY16.3伸び率を表す



個別設備投資の中期見通し

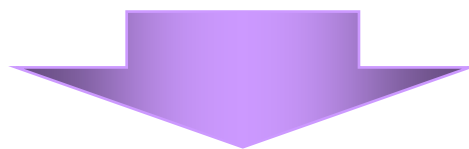
連結：億円



家庭用ガス販売

11.3期実績

	対前期	備考
調定件数	+0.1%	
気温影響	+2.2%	年間平均気温17.0度(前期17.0度) 冬場の平均気温7.2度(前期8.0度)
その他	-0.9%	
合計	+1.4%	



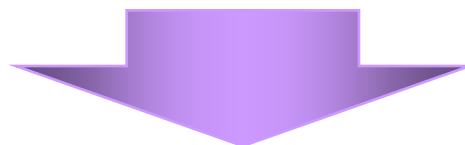
12.3期見通し

- 平年気温を前提とすることにより、冬場の気温が前年より高めに推移すると想定、対前期比-1.7%、38百万m³減の2,237百万m³と想定。

商・公・医療用ガス販売

11.3期実績

	対前期	備考
需要開発	+2.6%	公用物件や医療用物件の新規稼動
気温日数影響	+3.8%	夏場の高気温による冷房需要の増加
その他	-1.2%	お客さまの省エネルギー推進などの影響
合計	+5.2%	



12.3期見通し

- 平年気温を前提として、お客さまの省エネルギー推進の影響などを織り込み、対前期比-4.4%、72百万m³減の1,552百万m³と想定。

工業用ガス販売

11.3期実績

	対前期	備考
需要開発	+3.5%	新規物件の稼動開始
稼動増減等	+3.3%	お客さま設備の稼動増加など
合計	+6.8%	

主な業種別実績

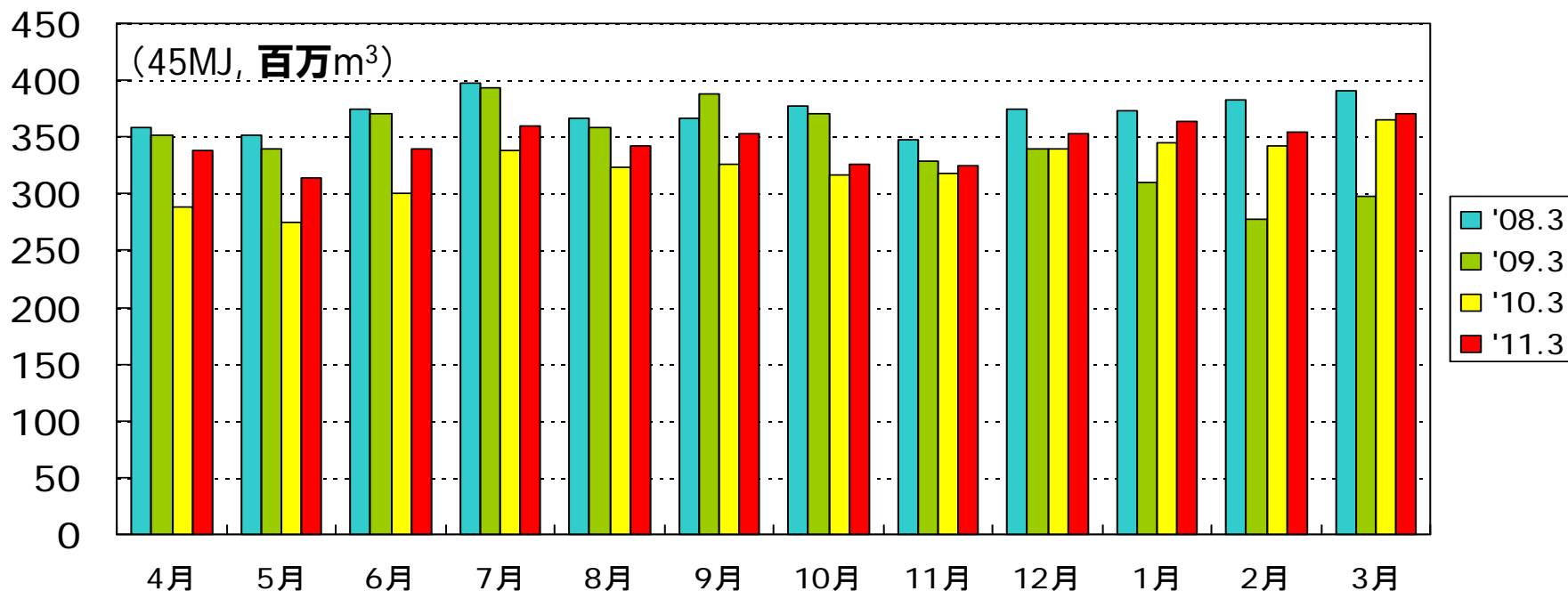
(45MJ, 百万m³)

	販売量	対前期比	対08.3期比
化学	1,134	102.8%	90.9%
金属	1,027	114.5%	89.2%
食品	505	102.7%	98.4%
機械	369	101.9%	75.8%
ガラス	314	124.2%	195.5%

12.3期見通し

- 油燃料を中心とした他燃料からの天然ガス転換を継続し、新規需要開発を進めるとともに、お客さま設備の稼動増加により、対前期比+0.6%、27百万m³増の4,168百万m³と想定。

工業用ガス販売の月別推移



10.3期月別比較	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
対08.3期比(%)	80.5	78.5	80.5	85.1	88.2	89.2	83.8	91.8	90.4	92.4	92.4	93.5	87.0
対09.3期比(%)	82.0	81.1	81.1	86.0	90.4	84.0	85.1	96.8	99.6	111.3	122.8	122.6	93.9

11.3期月別比較	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
対08.3期比(%)	94.5	89.6	90.9	90.7	93.1	96.7	86.5	93.6	94.2	97.7	96.1	94.6	92.9
対10.3期比(%)	117.4	114.2	112.9	106.6	105.5	108.3	103.2	102.0	104.2	105.7	104.0	101.1	106.8

- 2010年1月以降、前年を上回っているものの、リーマン・ショック前(2008.3期)の水準には達していない。

年度見通しに対するリスク要因

■ 気温・水温

- 気・水温1度の変化に対して、家庭用ガス販売量は、春秋期約5%・夏期約6%・冬期約4%変動する可能性がある。

■ 原油価格

- LNG価格は原油価格にリンクするために、原油価格1\$/bblの変化に対して、今年度の粗利益は9億円変動する可能性がある。

■ 為替レート

- LNG価格は米ドル・円の為替レートにリンクするために、為替レート1円/\$の変化に対して、今年度の粗利益は12億円変動する可能性がある。

■ 原料費

- 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。

■ 金利

- 金利1%の変動に対して、今年度の連結営業外費用が年間6億円変動する可能性がある。